

On your side

<https://toyono-jinikyoo.com/>

2

令和4年度(2022年度)
子ども主体の授業づくり①
(中堅教諭等資質向上研修)

10年経験者研修第2回は、小学校班・中学校班での実施でした。初任者との合同実施研修(コラボ研修)にむけて、自分の初任期の授業や先輩からの助言について振り返ったり、授業づくりで大切にしてきたことをグループで交流したりしながら授業改善について考えました。また、人材育成の手法であるメンタリングやコーチングの講義をもとにミドルリーダーとしての役割についても交流しました。

～ 振り返りシートより ～

今までの授業や今でも覚えている先輩の言葉など、自己を振り返る内容が多かったので、自分自身が思っている気持ちに改めて気づくことができました。そのことについて同じ教科の先生方と交流することができ、気持ちを共有することがたくさんあったので、とても嬉しく思いました。同じ10年目の先生とお話する機会があまりないので悩みなどもお話できてとてもいい機会になりました。

今年度は初任者と一緒の学年なので、初任者授業あるあるを考えながら、自分の初任の頃を振り返ったり、「たしかにこういうところがあるから少しずつ伝えていけたら」と考えたりすることができました。授業改善についてや、すごいと思った授業を交流することで、自分の日ごろの授業を反省するとともに、もっと考えていけることがあると気づけました。

「自分だったら…」と言ってしまっていたことを反省しました。相手の立場になり、相手の思考のもとでアドバイスすることや、相手をほめるのではなく、認める感覚を大切にしていきたいです。それが授業力向上につながり、学校全体のスキルアップにつながると感じました。それぞれの先生に感動した授業があり、その授業を観て多くの先生はやる気につながっていました。自分もそんな教師になれるように授業力を向上させていきたいと感じました。

グループでの交流を通して、話すことで自分の10年間を振り返るきっかけとなりました。学校現場での今の立ち位置として、傾聴・信頼・質問を意識していい空気をつくっていくことが必要であると感じました。特に、うまく話を引き出して認めていくことができるようになればいいなと思いました。

「分からないことが分からない」、そんな感覚や経験は初任者ならではのことかと思えます。1学期が終わり、職場にも慣れ、初任者はこれから確実に視野も広がっていくことでしょう。それと同時に悩みや不安も多くなることでしょう。

そんなときに「メンター」としてというより、「元・初任者」として寄り添える先輩でいてほしいと思います。傾聴や承認、共感といったキーワードは初任者研修の講義でも出てきましたが、それは担任としての子ども理解や学級づくりの講義

でのことでした。10年経験者研修を受講するみなさんには、これまで十分に培ってきたであろう指導スキルや経験を、これからは経験の少ない教員の育成を含め、学校全体に還元していくことを期待しています。



コラボ研修にむけて、「初任者として過ごした1年目に先輩から言われた言葉で今でも覚えている言葉」というトークテーマで交流をおこないました。当時を振り返ることを、先輩として(メンターとして)の役割や立ち居振る舞いを考えるきっかけにしていたのが印象的でした。「指導・助言をする」ことを不安やプレッシャーに感じるのではなく、自分が後輩(初任者)の頃を思い返しながら、コーチングができるといいですね。第2回の講義・演習のタイトルは「校内における授業改善を進めるために～子どもの力を引き出す授業づくり～」でした。今後、校内でみなさんがよき助言者・よき理解者として活躍するための「きっかけ」の一つに、前回の講義や交流、コラボ研修での指導・助言をしてほしいです。